

西野原遺跡Ⅰ

（平成13年度 袋井市上石野土地区画
整理事業に伴う発掘調査報告書）

2002.3

静岡県袋井市教育委員会
袋井市上石野土地区画整理組合

西野原遺跡Ⅰ

(平成13年度 袋井市上石野土地区画)
(整理事業に伴う発掘調査報告書)

2002.3

静岡県袋井市教育委員会
袋井市上石野土地区画整理組合

例 言

1. 本報告書は、平成13（2001）年9月1日～平成14（2002）年3月25日の期間に、袋井市愛野221-1他626筆で実施された西野原（にしのはら）遺跡の第1次調査の発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は袋井市上石野土地区画整理事業に伴う開発のうち、道路の建設予定地部分の発掘調査である。なお、本工事計画のうち、道路歩道部分・安全地帯・緑地帯については発掘調査は実施されていない。
3. 発掘調査は静岡県教育委員会文化課の指導を受けて実施した。
4. 今回の発掘調査・報告書執筆は永井義博（袋井市教育委員会）が担当した。
5. 西野原遺跡における袋井市教育委員会受託の試掘・発掘調査の履歴は次のとおりである。

調査の内容	調査年度	試掘調査・発掘調査の原因	調査担当者
試掘調査	平成6年度 (1994)	小笠山運動公園整備に係わる周辺河川改修事業 (委託先・静岡県袋井土木事務所)	吉岡伸夫 (袋井市教委)
詳細試掘調査	平成9年度 (1997)	袋井市上石野土地区画整理事業に伴う試掘調査 (委託先・袋井市役所建設経済部区画整理課)	永井義博 (袋井市教委)
第Ⅰ次調査	平成13年度 (2001)	袋井市上石野土地区画整理事業に伴う発掘調査 (委託先・袋井市上石野土地区画整理組合)	永井義博 (袋井市教委)
第Ⅱ次調査 (予定)	平成14年度 (2002)	袋井市上石野土地区画整理事業に伴う発掘調査 (予定)	未定

6. 西野原遺跡の袋井市教育委員会遺跡略号は「TNH」である。
7. 現地の発掘調査にあたっては上石野土地区画整理組合の皆さんにはたいへんお世話になりました。ここに記して感謝いたします。
8. また、区画整理課の皆さんには区画整理事業と埋蔵文化財調査の円滑な調整について、企画段階から発掘調査の終了まで多大なご理解と協力を得ました。たいへんありがとうございました。
9. 袋井市教育委員会側の平成13年度の発掘調査体制は次のとおりである。（敬称略）
 教育長 戸塚雅之 教育次長 藤田代行 生涯学習課長 鈴木健治 課長補佐 高木雅之
 主査 永井義博 主任学芸員 松井一明 主任学芸員 水野雅彦 学芸員 白澤 崇
 経理事務 鈴木寿美子
 （協賛発掘参加者） 浅野しづ江 太田昌宏 大庭嘉平 兼岡公子 兼岡進 窪野くに子
 笹川みどり 杉山まさ子 鈴木義彦 戸倉百合江 三浦とく江 三浦久雄 水谷博次 萩田権治
 山崎莊一 山本隆二 大庭京子 高木啓子 山下悦子
10. 本発掘調査は、静岡県教育委員会教育長より袋井市上石野土地区画整理組合理事長あての指示によるものである。文書番号は「土木工事等のための発掘調査に係る指示について（通知）」（教文第3-112号・平成13年7月13日付け）である。
11. 平成13年度 西野原遺跡発掘調査の資料は袋井市教育委員会が保管している。

目 次

第1章	調査に至る経過	1
第2章	調査の経過	2
第3章	調査の方法	3
第4章	地理的・歴史的環境	3
第5章	遺構	4
第6章	遺物	4
第7章	まとめにかえて	5

報告書抄録

挿 図 目 次

- 第1図 西野原遺跡位置図 (1/50,000)
第2図 西野原遺跡発掘調査位置 (1/2,500)

写真図版目次

図版 1

- (1) 発掘調査前の第5区付近の状況（東より）
- (2) 発掘調査前の第1区付近の状況（北より）

図版 2

- (1) 第1区の発掘調査
- (2) 第1区の発掘完了写真

図版 3

- (1) 第2区の発掘調査
- (2) 第2区の発掘調査区・土層の断面

図版 4

- (1) 第2区の発掘調査・完了写真（南西より）
- (2) 第2区の発掘調査・完了写真（南東より）

図版 5

- (1) 第3区の発掘調査・完了写真（西より）
- (2) 第3区の発掘調査・堆積する砂礫層（西より）

図版 6

- (1) 第4区の発掘調査の状況（東より）
- (2) 第4区の発掘調査の状況（北東より）

図版 7

- (1) 第4区の発掘調査の状況（東より）
- (2) 第4区の発掘調査・完了写真（東より）

図版 8

- (1) 第5区（西側）発掘調査・完了写真（東より）
- (2) 第5区（東側）発掘調査・完了写真（西より）

図版 9

- (1) 第5区（東側）発掘調査・出土した石器破片
- (2) 第5区（東側）発掘調査・土器の出土状況

図版10

- (1) 第5区(道路西側)発掘調査の状況
- (2) 第5区(道路西側)発掘調査・完了写真

図版11

- (1) 第5区(道路東側)発掘調査・完了写真
- (2) 第5区(道路東側)発掘調査・土層堆積断面

図版12

- (1) 第6区発掘調査の状況
- (2) 第6区発掘調査・完了写真

図版13

- (1) 第6区発掘調査・住居跡の発掘
- (2) 第6区発掘調査・中世溝跡出土の土器片

図版14

- (1) 第7区発掘調査・完了写真(東より)
- (2) 第7区発掘調査・住居跡群の発掘

図版15

- (1) 空中写真測量のためのラジコンヘリコプター
- (2) 測量図作成のための補測作業

図版16

- (1) 第5区(西側)発掘調査・出土土器の調査
- (2) 西野原遺跡出土土器の洗浄・乾燥作業

第1章 調査に至る経過

袋井市愛野（上石野）地内に所在する周知の埋蔵文化財・西野原遺跡は「袋井市上石野土地区画整理事業」に伴って平成13（2001）年度よりはじめての発掘調査が開始された。発掘調査に至る経緯は次のとおりである。

西野原（遺跡が周知の埋蔵文化財として登録されたのはごく最近のことである。今までの関連書籍の中でも、昭和54年に発行された『静岡県遺跡地図・静岡県地名表』（発行・静岡県教育委員会）や、昭和60年に発行された『袋井市遺跡地図・袋井市地名表』（発行・袋井市教育委員会）では上石野の集落内で埋蔵文化財は確認されておらず、西野原遺跡はまだ記載されていない。

昭和63年、愛野地区に進出を計画していたサンコー株式会社の工場造成工事に伴う若作遺跡・若作古墳群の発掘が上石野で実施された。そこで、たぶんこれに関連する周辺踏査や聞き取り調査によって西野原遺跡の所在が確認されたと思われ、その成果を受けて平成元年に改訂された『静岡県文化財地図・静岡県文化財地名表Ⅱ』（発行・静岡県教育委員会）にはじめて西野原遺跡として記載されている。

平成6年に県営小笠山運動公園建設が計画され、袋井土木事務所の依頼で9月19日～9月22日の間で、愛野地内の埋蔵文化財試掘調査が行われた。次いで、愛野新駅（当時）の建設に関連する土地区画整理事業が計画され、この中で埋蔵文化財の取り扱いにいて区画整理課、都市整備課、教育委員会の3者で平成8年12月13日に協議が持たれた。ここでは、教育委員会より祢宜弥土地区画整備事業と上石野土地区画整備事業に関連して円滑な工事を行うには、精密な所在調査・試掘調査を実施し遺跡の範囲を確定する必要性が唱えられた。そこで、平成9年4月8日～11日にかけて、祢宜弥・上石野地区の試掘調査が実施された。この結果、いままで県の調査員の推定で広い範囲を遺跡としていた遺跡地図より正確に発掘調査を必要とする範囲を確認することができた。ちょうどこの頃、全国的に発掘調査の取り扱い見直しが話題となっており、静岡県教育委員会に問い合わせたところ、平成10年6月29日付けで袋井市愛野地内の遺跡の発掘調査について次のような指示があった。

- ①道路用地のうち歩道を除く部分は従来どおり発掘調査が必要であるとのこと。
- ②道路用地のうち歩道部分は慎重工事の取り扱いとすること。
- ③商業地・住宅地については直ちに発掘しないで、店舗・住宅等の建設計画が具体化したところで基準に沿って対応すること。
- ④工事等により遺構面が破壊される恐れのある場合は対象地すべてが発掘である。

これによって、祢宜弥遺跡に続き西野原遺跡も新基準を適用して、今までの袋井市内で実施された区画整理事業関連の発掘とは異なり、計画道路の車道部分が主な調査対象となった。

このため、平成13年6月29日付けで袋井市上石野土地区画整理組合理事長名で静岡県教育委員会教育長あて「埋蔵文化財発掘の届出書」（文化財保護法第57条の2）が提出された。これを受けて平成13年7月13日付け教文3-112号「土木工事のための発掘調査に係わる指示について（通知）」にて静岡県教育委員会教育長より袋井市上石野土地区画整理組合理事長あてに図面上で「発掘調査」「工事立ち会い」がそれぞれ指示された。この指示書は袋井市教育委員会を經由して上石野土地区画整理組合に通知されている。

第2章 調査の経過

平成13年9月1日 発掘調査委託契約の締結。

10月19日～ 工事・発掘調査の安全祈願祭を区画整理組合が行う。

プレハブ建て上げ。水道・電気引き込み作業。

10月22日～ 重機による表土の掘削・除去作業。

10月29日 昨日からの雨により水がたまる。排水作業を行う。

10月30日 5区の発掘調査を継続する。

10月31日 文化財係打ち合わせのため本日作業中止。

11月1日～ 7区の調査では住居跡が検出される。炉跡も検出。

11月7日～ 5区、2区、1区で発掘調査。古式土師器などの遺物多数出土する。

11月19日～ 5区西側の発掘調査を行う。緩斜面の遺物包含層を除去すると柱穴跡等の遺構が検出される。

11月27日 3区の包含層の掘り下げ。遺物は少ないながらも混在している。先週までは湧水が激しいところであったが、今週になって水が枯れたのか湧水は見られない。

12月3日～ 6区・7区の遺構発掘作業を行う。住居跡が検出される。

12月10日～ 道路発掘部分の地下にある上水道の移設作業を水道課が実施する。

12月12日～ 2区と5区の東側の発掘調査を行う。遺物の出土量多く集落跡の中心地と考えられる。

12月12日～ 3区の発掘調査。遺物は出土するが遺構は確認されない。遺跡の北限を示すと考えられる。

12月27日 年内の発掘は本日で終了。

平成14年1月7日～ 発掘調査の再開。1区の発掘調査。土質が悪いので崩れやすい。

1月15日～ 5区道路西の発掘調査を行う。遺構・遺物は確認できるが少ない。

1月21日～ 5区道路東の調査を行う。遺構・遺物は確認できるが少ない。

1月28日～ 4区の発掘作業。この層位では遺物の出土はない。

2月4日～ 遺構の発掘と写真撮影のための清掃作業。

2月14日 株式会社フジヤマによる空中写真測量・撮影を実施。

2月18日～ 仮設トイレ・現場プレハブ事務所の撤去作業。

2月25日～ 遺跡出土品資料整理と発掘調査報告書の作成を行う。

平成14年3月25日 発掘調査委託契約完了。

第3章 調査の方法

今回の発掘調査は7区画に分割されている。それぞれ第1区(120㎡)、第2区(180㎡)、第3区(90㎡)、第4区(156㎡)、第5区(300㎡)、第6区(144㎡)、第7区(180㎡)で合わせて1,170㎡が対象面積である。調査地の現況は畑地(茶園)、道路、駐車場であったが、周囲には住宅や公会堂などが建つ集落の中である。

さて、かつての試掘調査により遺物包含層の分布と遺構深度等が確認されていたのは7区西側の1カ所のみであったので、その他の地区では手探りの発掘であった。第6区西側より重機で表土を除去していったが、遺構面の確認は難しく流れ込みの土層が多数重なり遺構確認には手間取った。

西野原遺跡の発掘調査区は、発掘調査の新基準に準拠しているため道路部分のみであるためどうしても細長い区画となり、さらに7区画に分割されているため発掘調査により遺跡の性格まで把握するのは困難であった。これは、上石野地区がいわゆる扇状地に位置するため、区画整理事業での工事は遺構確認面までに30cmの保護層が確保できるため、工事により遺構・遺物を破壊する恐れが少ないため、なるべく遺跡を保存するために「遺跡の破壊される恐れのある部分」と「道路部分」のみが発掘対象となった。今回の発掘調査では、区画整理課と組合のご配慮により周辺に広い作業ヤードが確保されていたため安全に作業ができた。

遺跡の測量はラジコンヘリコプターによる空中写真測量を使用した。40分の1、100分の1の遺構実測図を作成するとともに鳥瞰写真の撮影も行った。その他調査方法の基本は第1次調査を踏襲した。写真撮影はラジコンヘリコプターからはブローニサイズ6×6を使用し、遺跡内のスナップ写真は35mm判にニコンF70を使用した。

第4章 地理的・歴史的環境

愛野地区の地理的・歴史的環境を知るために、地元、愛野地区の歴史と民俗について2冊の記録書よりその状況に若干触れてみたい。今回の発掘調査中、発掘参加者の鈴木義彦氏(上石野)より、鈴木家に伝わる昔の記録書「石野之葉」を見せていただいた。これは、昭和8年に鈴木松太郎氏によって記録された愛野地区の近世・近代の歴史と民間伝承についてまとめたものである。石野は昔は石野村、さらには石野郷とも呼ばれ鎌倉時代の文獻に最初に姿を見せるようになった。

石野乃葉の一説には「石野村ハ今ヨリ凡七百八年前ニ出来タル村ニ神社三ヶ所、寺四ヶ所アリタルモ、明治八年ノ改正ニテ神社仏閣ハ一村ニ一社一ヶ寺ヨリホカニ建置ク事デキズト云事ニテ正覺寺、慈徳庵、菩提寺ノ三ヶ寺ツツシテ明香寺ノ一ヶ寺トナック。熊野権現神社、八幡宮、山之神社之三社アリタルモ明治八年之改正ニテハ八幡宮一社氏神トシテ祭り置ケリ。・・・・・・」とある。つまり本書の冒頭からも解るとおり、当時の石野村は袋井市内では古くからの郷であり、大きな集落であったことが伺える。この「石野乃葉」については別の機会に内容を詳しく紹介することとしたいが、この中でも大きな災害がたびたび石野村を襲ったことが記されている。小笠山の地質が砂礫層を基盤とするため、少し雨が多く降ると土砂崩れや洪水がおこり土石流となって集落を押し流すことがあった。

もう1冊、愛野地区関連の冊子として『五軒平の歴史』（勸業報徳社刊行）がある。これは、袋井市愛野の山田川の小高い丘でJR東海道線と新幹線の南側に位置する場所についての記録書である。これによると、現在は大塚製菓の工場が建設されているこの地は、かつては五軒平（ごけんべら）と呼ばれる茶園が広がっていた。そして昭和16年、25人の地元民により五軒平は開墾されたがこの開墾の際、古墳が掘り起こされ五鈴鏡1点、壺の一種、直刀、管玉10個が出土している。現在、これらは「五軒平古墳出土五鈴鏡」として管玉、ガラス玉等と共に袋井市指定文化財となっている。なお、「五軒平」の名の由来は、昔ここに五軒の武家屋敷があったためと伝えられている。後に、この地は工場建設に伴う発掘調査が実施されて、たいへん珍しい小銅鐸が発掘された愛野向山遺跡の名で全国に知られるようになった場所である。

第5章 遺 構

今回の発掘調査地は民家の移転に関係していない畑地を中心に実施された。

検出された遺構としては弥生時代・古墳時代は住居跡12軒、炉跡6、溝跡1がある。中世・近世の遺構としてはいくつかの柱穴跡から建物があった可能性が考えられている。また、小溝跡も検出されている。ただし、どの時代も全容が確認できる遺構は少なく、ほとんどの遺構がその一部のみを現している。発掘調査の新基準に基づく、道路車道部分のみの発掘としてはこれが限界かもしれない。

西野原遺跡の発掘調査が年度末までずれ込んでしまい、現在、遺跡を発掘しながらの報告書原稿の執筆であり、遺跡測量図もすべて納品されていない段階なので個々の遺構の規模性格を記述する段階ではないが、1990年に同じく愛野地区で発掘調査された「若作遺跡 若作古墳群」の調査例を対比すると、各遺構を考える上で理解し易いと思われる。詳細については、平成14年、平成15年に実施される第2次調査以降の成果と合わせて検討していきたい。

第6章 遺 物

西野原遺跡の出土遺物は発掘調査が終了して間もないためすべての整理作業が完了していない段階である。出土遺物は現場で確認されているものでは、縄文時代中期の石器破片1点、弥生土器片多数、古式土師器片若干、須恵器、陶器破片、磁器破片が若干数ある。確認された遺構内より出土している遺物は弥生土器、古式土師器の出土が多い。遺構確認面の包含層は南側の小笠山からの流入土の中に混在しており古墳時代中期・後期の土師器破片を含んでいる。遺物は1区から7区までの調査区に遺物包含層が確認されているが、それぞれに出土量の違いはある。遺物密度の薄い包含層は遺跡の範囲から一部除外できる可能性がある。来年度以降の調査の結果を注意して検討したい。

第7章 まとめにかえて

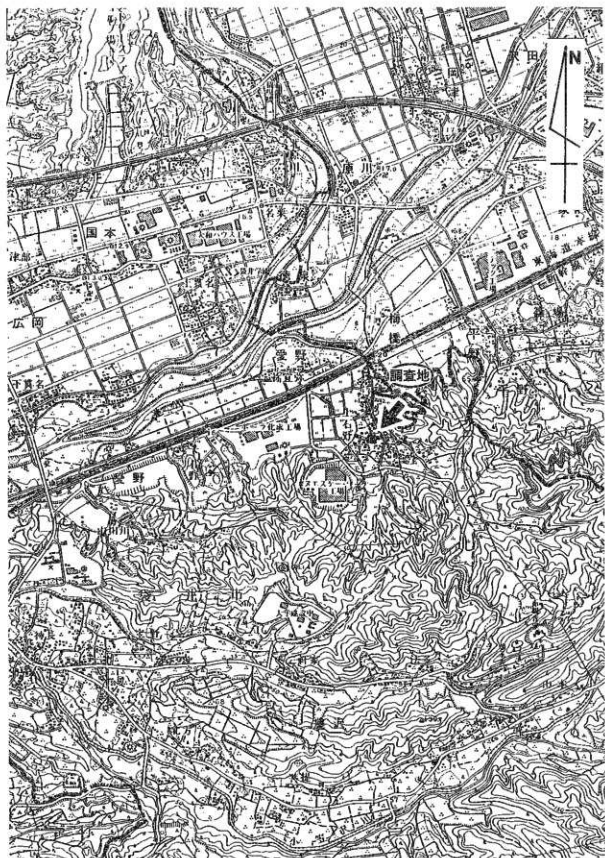
西野原遺跡の立地は、地形的には小笠山北西部のいわゆる扇状地の地形に位置している。弥生時代・古墳時代前期の遺構面（生活面）を基準に考えると、その上には厚さ1.5m以上の堆積層（砂礫層）があるのがわかる。その堆積層の中には古墳時代中期以降の須恵器を含まない土師器破片のみが大量に包含される層が確認されており、その頃に大災害があつて土石流が西野原のムラを襲い、全滅に近い被害を出したことが想像できる。つまり、その土石流による大量の土砂の堆積により、扇状地が形成されたことになるのである。また、古墳時代集落跡はさらに北側の祢宜弥遺跡まで範囲は及んでおり、原野谷川・逆川が水運の利用によってこのムラを支えた可能性がある。西野原遺跡の周辺の古墳時代遺跡としては山間部に若作古墳群、石野古墳群、愛野向山古墳群などの墳墓群が散在しており西野原遺跡のような集落遺跡を取り囲む環境になっている。また、原野谷川の後背湿地であつたポーラ化成工業株式会社の敷地周辺では、かつての土地改良事業で土器や木製品などの出土品があつたようで水田跡の可能性も示している。

このように西野原遺跡周辺は、生産（水田跡）－生活（集落跡）－埋葬（古墳）－交易（河川）が復元できる古代社会の「箱庭」のようなエリアと考えることができるのかもしれない。来年度以降の発掘調査の結果を加えてさらに詳しく検討していきたい。

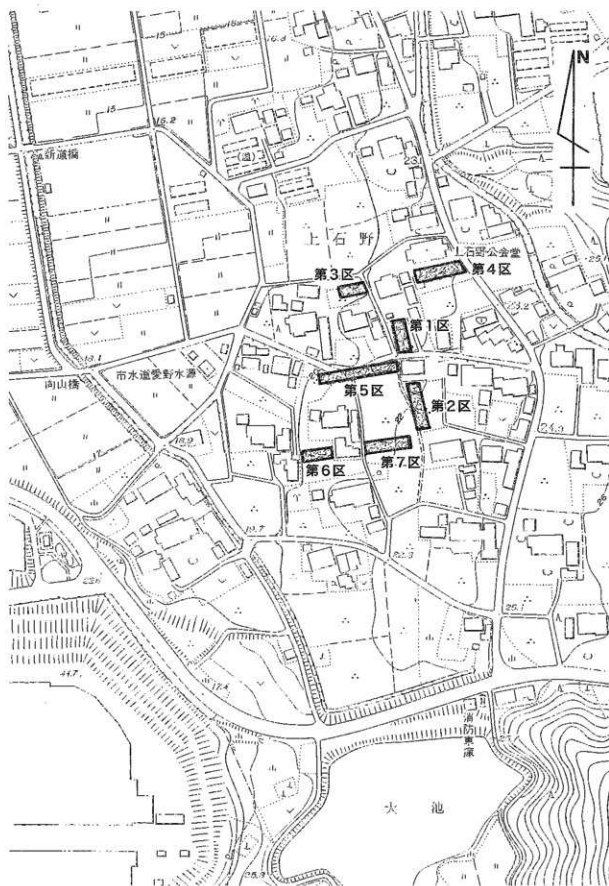
（参考文献・引用文献）

- 樋口清之1930 「静岡県小笠郡曾我村弥生式土器遺跡研究」『史前学雑誌』第2巻 史前学会
- 西郷廉八1931 「遠江考古資料四件」『考古学雑誌』第21巻 第5号
- 鈴木松太郎1933 『石野之架』石野村之由来ほか
- 吉田富夫1938 「遠江国及び駿河国の弥生文化」『考古学』第9巻 第1号
- 浅井喜作1975 『豊沢小史－古文書より見た宝野と菩提－』
- 浅井喜作1977 『笠西小史－近世文書より見た村々の姿－』
- 勸業報徳社1980 『五軒平の歴史』
- 加藤芳朗1985 「土橋遺跡をめぐる地形・地学的背景」『土橋遺跡』袋井市教育委員会
- 袋井市教育委員会1987 『愛野向山A-2・3・4号』
- 袋井市教育委員会1988 『愛野向山A-8号 愛野向山墳墓群 愛野向山IV遺跡』
- 袋井市教育委員会1990 『若作遺跡 若作古墳群』
- 静岡県1990 『静岡県史 通史編1 原始・古代』
- 静岡県1994 『静岡県史 資料編1 考古1』
- 袋井高校郷土研究部1997 『石野の民俗』調査報告書
- 財団法人埋蔵文化財調査研究所1997 『小笠山総合運動公園内遺跡群』
- 袋井市教育委員会2001 『祢宜弥遺跡I』

插图



第1図 西野原遺跡位置図 (1/50,000)

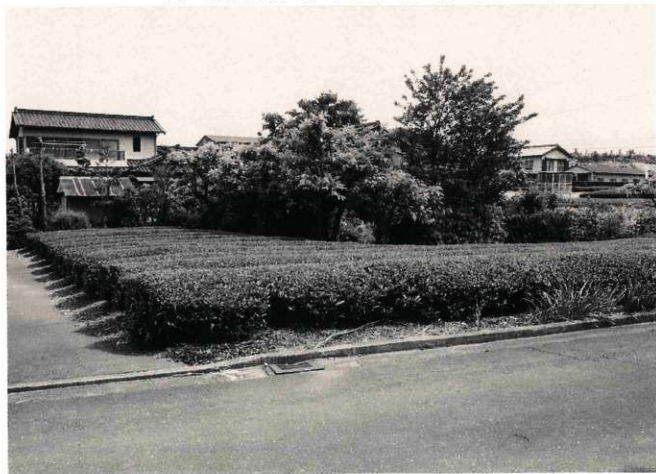


第2図 西野原遺跡発掘調査地点 (1/2,500)

写真図版



(1) 発掘調査前の第5区付近の状況（東より）



(2) 発掘調査前の第1区付近の状況（北より）



(1) 第1区の発掘調査



(2) 第1区の発掘完了調査



(1) 第2区の発掘調査



(2) 第2区の発掘調査区・土層の断面



(1) 第2区の発掘調査・完了写真(南西より)



(2) 第2区の発掘調査・完了写真(南東より)



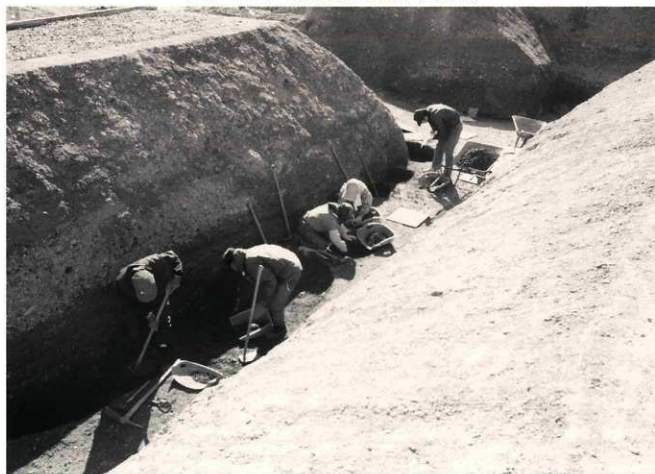
(1) 第3区の発掘調査・完了写真（西より）



(2) 第3区の発掘調査・堆積する砂礫層（西より）



(1) 第4区の発掘調査の状況（東より）



(2) 第4区の発掘調査の状況（北東より）



(1) 第4区の発掘の状況(東より)



(2) 第4区の発掘調査・完了写真(東より)



(1) 第5区(西側)発掘調査・完了写真(東より)



(2) 第5区(東側)発掘調査・完了写真(西より)



(1) 第5区(東側)発掘調査・出土した石器破片



(2) 第5区(東側)発掘調査・土器の出土状況



(1) 第5区(道路西側)発掘調査の状況



(2) 第5区(道路西側)発掘調査・完了写真



(1) 第5区(道路東側)発掘調査・完了写真



(2) 第5区(道路東側)発掘調査・土層堆積断面



(1) 第6区発掘調査の状況



(2) 第6区発掘調査・完了写真



(1) 第6区発掘調査・住居跡の発掘



(2) 第6区発掘調査・中世溝跡出土の土器片



(1) 第7区発掘調査・完了写真(東より)



(2) 第7区発掘調査・住居跡群の発掘



(1) 空中写真測量のためのラジコンヘリコプター



(2) 測量図作成のための補測作業



(1) 第5区(西側)発掘調査・出土土器の調査



(2) 西野原遺跡出土土器の洗浄・乾燥作業

報告書抄録

ふりがな		にし の ほろ い やま						
書名		西野原遺跡Ⅰ						
副書名		平成13年度 袋井市上石野上地区画整理事業に伴う発掘調査報告書						
編集者名		永井義博						
編集機関		袋井市教育委員会						
所在地		〒437-8666 静岡県袋井市新屋 丁目1番地の1 TEL 0538-44-3141						
発行年月日		2002年3月22日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査原因
にし の ほろ い やま 西野原遺跡	しずおかけんふくろいし 静岡県袋井市 あいの 愛野	22216	186	34° 44′ 47″	137° 58′ 08″	2001 ↓ 2002	1,170㎡	袋井市上 石野土地 区画整理 事業に伴 う道路築 造工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
西野原遺跡	集落跡 散布地	縄文時代 弥生時代 古墳時代		柱穴跡、土壇 住居跡、溝跡		石器片 弥生土器 土師器	発掘調査では、古墳時代 に小笠山が崩壊した 土石流の跡が確認でき た。古墳時代の集落は 土石流の下層から検出 されている。小笠山に 残る「大崖」が元では ないかと考えられる。	

西野原遺跡Ⅰ

(平成13年度袋井市上石野土地区画)
整理事業に伴う遺跡発掘調査報告書

2002年3月

編集 静岡県袋井市新屋1-1-1

袋井市教育委員会

印刷 静岡県榛原郡吉田町片岡2210

松本印刷株式会社